

ご挨拶

国大化学会副会長 鈴木恵一朗（昭和45年電化卒）

私の大学同窓会との関わりは、今から10年ほど前に電化材化会の幹事を依頼されたときに始まりまし。電化材化会では当時の阿部会長の下、会計をしばらく担当し、その後会誌の編集担当となり、以後、国大化学会発足後も会誌の担当を務めてきました。昨年秋で国大化学会誌も8号となりました。同じ者がずっと担当するとどうしても新鮮味がなくなってくるので、そろそろ他の方が中心になり進めるのがよい、第3期の本年度より私はサポートに回りたいと思っていました。が、結果として会誌・名簿グループのリーダーではなくなったものの、逆に大役を仰せつかり果たして私で務まるのだろうかと恐縮しております。しかし、引き受けましたからには、平井会長を助けて、微力ではありますが、会の活動を支えていきたいと考えております。

さて、国大化学会は5年目に入り、米屋前会長が挨拶で言われていますように、基礎固めから本格的活動に入る段階に来ております。会員のネットワークの構築という点では、新たな同窓委員会がスタートし、軌道に乗りつつあります。また、会の新たな活動としては、学生支援が本格化しつつあります。学生支援については、国大化学会発足以前からも「OBと語る会」に講師を出すなどで協力してきましたが、これをさらに広げ、教育研究支援を行い、就職支援なども始めております。この活動は国大化学会を、同窓生の懇親・交流の場としてだけでなく、母校の発展のために寄与するものにしていく方向を強めるもので、この方向に大きく舵を切ったと言えると思います。

まずはこのような変化を多くの会員の皆様に是非知っていただきたいと思ひます。特に30～50代の会員の方々は、仕事が本当に忙しい世代であり、懇親的な意味で同窓会に関心を持つ人はほとんどいないと言ひていいと思ひます。皆さん、懇親・交流という点では恩師を中心とした研究室の集まりでこと足りているのが現状でしょう。しかし、母校の発展、現在の学生の後輩達に役立つことがあれば何かしたいとの気持ちは潜在的に多くの方がお持ちではないかと思ひます。しかし、今まで漠然とそう考へても、同窓会がその受け皿になってはいませんでし



た。そこで、現在の学生支援活動、今後の活動案を会誌、ホームページ等を通じ、また同窓委員等を通じクラス会、研究室の集まり等で口コミで宣伝し、同窓会の変化を知っていただき、協力をお願いしていくことが大変重要と思ひます。こうすることにより、同窓会の活動に顔を出し、会費を払う、さらには寄付をする人が徐々にでも増えていけば、人と費用が必要な学生支援によい循環が生まれ、活動の幅と質を上げていくことが可能となります。

また、一方、学生の皆さんの側からしても、「OBと語る会」「化学コース配属2年生懇親会」、「学会への登録費補助」、「学生役員を通じての同窓会活動への参加」、「ホームカミングデーへの協力・参加」等で、最近、学生の国大化学会の認知度が上がりつつあるように思ひます。また、正会員である教員の直接的な呼びかけも奏効し「総会・講演会・懇親会」への学生の参加が増えてきており、学生から国大化学会への感謝の声も耳にするようになってきています。これはまさに、同窓生のみでなく教員、学生も会員となっている本会のよい効果が現れつつあるのだと思ひます。いろいろな場で、同窓生と学生そして教員との交流が深まることが、同窓会にしかできない、ニーズに的確に答えることができる学生支援につながり、そのよい循環が国大化学会の今後の発展の力となることが期待されます。

以上、学生支援に焦点を当てて記してきましたが、こうした流れと併行して、工学部全体の同窓会、大学全体の同窓会についての新たな議論が今後進んでいくものと思ひます。

では、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。